

(1) 昭和44年9月1日

No.158

交通安全

宣言都市

青少年愛護

まつやま

市広報

発行人 桜井山喜代喜
地主 旗山市役所 謹啓

陸に

空に

未審きながらの

力強い訓練を展開

台風や火災に備えた大がかりな防災総合訓練が五日、県と市の共催で九頭竜川源山麓下流の一帯で行なわれました。

訓練には県、市、各機関、和泉、大野、勝山、上志比、松原など九頭竜川沿いの市町村水防、消防団員、県警、自衛隊、日赤県支部、北電福井支店など官庁、民間企業四十団体から約千人が参加、「超大型台風が奥越地方をかすめて通過し、このため市周辺は集中豪雨で河川がはんらん、家屋倒壊などの大きな被害が出た」という想定で実施されました。

まず水防、消防団の土のうづくり、むしろ張り、三叉（さんまた）工法の水防訓練。続いて中州にとり残された人の救出には県警の舟艇、自衛隊ヘリコプター二機が活動。一方福井電気通信部などによる電信、電力、鉄道、水道の応急復旧、日赤奉仕団の炊出訓練、ケンクローリー車の火災訓練など前夜來の雨で川水も増水し、ときおり雨も降りしきるなかで約三時間、本番さながらの猛訓練をくりひろげました。

この日は約三千人の市民も参加見事な訓練に拍手をおくるなど、頼もしい訓練に見入り、郷土を災害から守る気持を新たにしました。

老後のしあわせのため

老人福祉を考えよう

す。

九月十五日は「敬老の日」、九月は「老人福祉の月」としておとしよりを敬いしあわせを願う月となっています。

必ず訪れる老年、まだ若いと思つていてもすぐ年をとつてしまします。さて、あなたの老後はーそして現在の老人対策はどうか今一度考えてみましよう。

あなたの老後は…

日」、九月は「老人福祉の月」としておとしよりを敬いしあわせを願う月となっています。

必ず訪れる老年、まだ若いと思つていてもすぐ年をとつてしまします。さて、あなたの老後は—そして現在の老人対策はどうか今一廻考えてみましょう。

市内の老人の数
市民のなかで年令的に老人と言われる人（六十五歳以上）は三千二百二十人でその年令別数次の通りです

年 金 な ど の 受 給 状 況	65~70歳	1,398人
	71~75歳	859人
	76~80歳	534人
	81歳以上	443人
	合計	3,224人
(全体の)		9.1%

国民年金の額は

また昭和四十六年度からは、国民年金に加入後十年間掛金をした六十五歳以上の人には月額五千円の国民年金が支給されます。

三百五十五人の人が扶養義務者の
収入が一定額よりも多いため何らの
恩恵にあずかっていないわけです
もつと愛の手を

とせちがらい世相を嘆いていました。老人にとつてわずかでも自分のお金があることはどんなに楽しいものか知れません。扶養者の収入が多くて年金のあたらない人にもらえるよう。そして年金額の福祉施設の増額など国の政策として考えねばならぬ課題です。

さいわい当市内の老人で家族に見捨てられる人も少なく、ほとんどの人が家族との生活をおくつておられます。一人住いの老人家庭へは市の老人家庭奉仕員が毎二、三回訪問して洗濯などの身の回りの世話をしており、担当地区の民生委員も時々訪れるなど福祉につとめていますが、淋しさはかくはないようです。老人にとつて家庭と温かい家庭のなかで過せるほど幸福なことはありません。私たちのまわりのお年寄りを、そして自分の老後のしあわせのためにも



市民の手

老人福祉 問題について

川崎真五郎

外す姫めに著書「老人社会福祉法人大野和光園」についてその現状を見る。

現存 男子七十二名、女
子八十八名、計百六十名、
年間平均入園者二名、死亡
人員二名（男女各一名）、前

職無職が、三十名二十%で、一番多く、在闇本籍は地元大野町の三十九名二十五・七%が第二位、宗教は真宗寺十二名で七十九名、年令別では七十五才以上と八十歳未満が三十五名二十一・五%園内在籍年では一年以上し五年未満までの六十七名

かの家庭づくりを心かけたいものです。

医療制度がよくなつて年令が延び長命者が多くなつて老人福祉問題が強くさけばれる反面不幸な老人が増しているのも事実である。憲法がかわり戸籍法が変わつて、子は親を扶養する義務がなくなつた?と感想いしてか、いろいろと親子関係の問題が出て来て心配ごと相談所が繁昌しているのは決して好ましい姿ではない。

老人の幸福はわたしの願が叶いこの問題に今一層の努力を望まれるのはやはり民生委員と市民の温かい活動である。私たちはよくても悪くともいかに困難があつても常に老人家庭を訪問しその家族の反対がいかに強くても老人の為に家庭訪問の実施調査活動を始め、老人をなぐさめ話し相手となり、家族の協力を頼り其に相談しよい方法を考えあうべきである。（終）

国民年金の老人福祉年金の対象

で、その受給状況は別表の通りで

あるお年寄りは、「近頃は物価
が上がりつゝ、お寺まいりのおさい
せんも十円が三十円になつて…」



市の老人家庭率仕興の世話を
る一人住いのおばあさん

産業が発展し科学が進歩し

